

本稿は、令和2年度、コロナ禍、真ただ中で取り組んだジチカツを紹介します。なお、ジチカツは自治会活動のこと。「じじ（爺）が勝つ」ではありません。

八条が丘自治会は、住みよい街として評価されている京都市長岡京市に存し、3〜5階建て、18棟のマンション群を中心とした約930人が暮らす「地域」にある自治会で、近くに観光の名所や文化施設、保育所、学校、スーパー、鉄道、高速道路ICなどがあり、自然環境・都市機能・住生活が備わっています。

若い世代は転勤族が多く、高齢者世帯が多いという特徴があります。

ハード面では、エレベーターがないことが課題のひとつとなっています。

会長を引き受けて3年目。これまで役員と共に地域や暮らし、ひとつづくりをすすめ、地域の「おもしろい」を一緒に見つけるジチカツを展開してきました。



夕涼み体操 北公園

従来のお花見会や夏祭り、運動会、バス旅行、花植え、防災訓練という活動に加え、「おもしろい」と。たとえば、地域の人材をわがまち先生とする講演会やパブリックビューイング、「八条が丘だより」のメール配信など。

本会のジチカツは、市の広報誌で取り上げていただくなど、設立50周年を控え、大規模な記念行

まちむら発見②

コロナ禍のジチカツ。多世代交流への挑戦

京都市長岡京市 八条が丘自治会

事を進めるべく意気揚々としていました。

ところが暗雲で一転。国は二度の緊急事態宣言を發出。ジチカツは年賀交歓会を最後に中止や延期、規模縮小、書面開催。人と会うな。孫に会うな。故郷に帰るな。酒飲むな。

回覧板は回さず。会費は集めず。会議なんてとんでもない。閉塞感・孤独感：ひとり暮らしの高齢者は大丈夫か。今までに経験したことのない厳しい状況となりました。このままでいいのか、接触機会は減らして絆を築くという矛盾を解決する方法はないのか、コロナ禍でもできるジチカツは何か。暗中模索の日々を過ごしていました。「こんなときだからこそ住んでよかったなあ」と思える地域にしたい。

とりあえず手探りで、各種団体や社会福祉協議会（社協）らと意見交換することになりました。

できることを話し合った結果、大きく構えず、小さな成功を繰り返して、みんなと一緒に横断的に繋がる仲間づくりを目指してはどうか。多世代交流に一筋の光を見出しました。

まずはラジオ体操。趣旨に賛同いただいた市内の介護・福祉事業所と社協の力を借り、感染対策を講じながら「夕涼み体操」を実施。夕方30分程度、公園を使って音楽体



フェイスシールドづくり



ハロウィーンの様子

でもはたして、これで対策は充分なのか。お菓子のやりとりや行列行進で感染が拡大したらと思うと、感染リスクの高い高齢者への影響が心配で弱気になりました。

メンバーと相談し、敬老の日に見守りを兼ねた友愛訪問カードを高齢者宅に個別配布。今の体調を配布用紙にご記入いただくとともに、ハロウィーン開催の賛否を人生の先輩方に、率直に尋ねることにしました。

もちろん反対の声もありましたが「賛成やで」「おきばりやす」と、多くの背中を押す声が目にとま

操やゲームを行うもの。はたして受け入れられるのか。

5日間連続で開催。約180人の老若男女が参加、同じ時間と空間を体感し、久しぶりに地域の人同士の交流する姿を見て、開催してよかったと安堵しました。イベントの様子は地方新聞（京都新聞）に掲載され、みなさんを勇気づけることができました。

次の挑戦はハロウィーン。クリアフォルダを切って、感染防止用のフェイスシールドにしよう。それに黒や橙の画用紙を好きな形に切って貼ればどうか。マジックでさらりと描けば即席「オバケ」が誕生するよね。そつだ作り方は、事前に講習会を実施しよう。この工夫なら感染予防しつつ、仮装行列できるかもしれない。メンバーのアイデアは固まりました。



紙ヒコーキを飛ばす



紙ヒコーキで多世代交流

り、趣旨に賛同いただいた多くの団体・事業所と「おもしろい」をやってみることに。

当日は、子どもたちと「お菓子をくれなきヤイタブラしちゃうゾ！」と、施設や地域内のポイントを巡り、クイズに答えてお菓子をゲットするなど楽しんだ後に、他地域3箇所とオンラインでつなぎリアルタイムで交流。

「鬼滅の刃」のテーマソングにのせて、みんなで体操。地域FM（FMおとくに）にも生出演をはたしました。終わった後の充実感を有志の子どもたちと久しぶりに共有しました。

ハロウィーンの成功から、子どもリーダーたちが主体的に企画してくれるようになり、子どもたち発案の「紙ヒコーキで多世代交流」を実施することになりました。手作りの紙ヒコーキを投げ、その飛距離を競う単純なものです。対戦は他地域の団体とオンラインで結び実施。紙ヒコーキの性能や投法、風などの影響で思いどおりに飛んでくれず、その意外性に爆笑の渦!!

子どもから高齢者まで顔の見える関係性につながり、今も自治会を中心としたグループ「ふれあい八条が丘」として活動継続中!

「地域」は自分も含めて様々な人が集まっています。日本にいくつもあるまちの中で、同じ地域に住むことに決めた。そのご縁を大切にしていきたい。アフターコロナを見据え、「じじ（爺）」だけじゃなく、多世代の住民が主体的に取り組めるジチカツに、これからも挑戦します。

（力を貸していただいた団体・事業所・社協のみなさんに感謝いたします。）

（八条が丘自治会会長 八木仁美）